

令和 7 年度 県立太田第一高等学校自己評価表【定時制】

目指す学校像	グローバルな課題の解決に挑む力、持続可能な社会づくりに貢献できる力を育む学校		
三つの方針	具体的目標		
「三つの方針」 (スクール・ポリシー)	「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーション・ポリシー)	(1) 自他を尊重する心と、より良く生きるための自己指導能力の育成 (2) 社会の一員として、持続可能な社会づくりに貢献できる力の育成 (3) グローバルな課題に気がつき、問題を解決しようとする力の育成	
	「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	(1) 教師や友人とのかかわりの中で自己理解、他者理解を深化させる機会の設定 (2) 社会生活に必要な知識・技能を学びなおせるような個別最適化された学びの工夫 (3) 思考力・判断力・表現力を磨く場面が多くなるような授業の工夫 (4) 達成感や協調の意義を感じられ、自己効力感が高まるような学校行事の運営	
	「入学者の受入れに関する方針」 (アドミッション・ポリシー)		
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況
<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの生徒が意欲的に学習に取り組んでいるが、指示がなくても主体的に取り組める生徒は少ない。生徒の心身が安定し学びに集中できる環境を整えとともに、学習態度をより主体的にしていく必要がある ・ハローワークの就職支援ナビゲーターによるキャリアガイダンスを実施した。進路に関する個別の対応も丁寧に行ったが、勤労観・職業観が十分に形成されておらず、進路に対する意識が低い。生徒一人ひとりのニーズを把握しながら、キャリア教育をより充実させていくことが必要である。 ・学校行事の参加率は向上し、生徒のコミュニケーション力は徐々に向上している。今後は、学校生活の中で他者と協働し、自己有用感を向上させながら、自ら目標を立てそれを達成でき 	個別最適化された学びの推進	・生徒による授業満足度の平均値 85 パーセント以上	A
	キャリア教育の充実	・学校評価アンケートにおける「自分の進路を実現させるために必要な指導がよく行われている」に対する平均点 4.5 以上（5段階評価） ・全職員による 1 人 1 回以上のキャリアガイダンスの実施	B
	学校行事の創意工夫	・学校評価アンケートにおける「学校生活や行事において、自分の役割の成果が認められていると感じるようになった」に対する平均点 4.5 以上（5段階評価） ・年間行事参加率平均が 80%以上	A
	教職員の適切なワークライフバランスの実現	・超過勤務時間が月 45 時間以上の教職員ゼロ	A

別紙様式 2 (高)

<p>るような体験の充実が必要である。それらの体験を通し「自分ができる」という自己効力感の向上につなげていきたい。</p>					
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度(学期)への主な課題	
国語	<p>国語への興味・関心、基礎学力、コミュニケーション能力を高め、日常生活に生かすことができるようにする。</p>	(1) 漢字や慣用句を日常生活で活用し、社会貢献の場に生かすことができるよう、漢字の読み・書き取りの反復練習と語句の意味調べを行う。	A	A	<p>それぞれの進路に応じた個別の添削や作文指導をより充実させる</p>
		(2) 表現の知識・方法を身に付けることができるよう、ICTも活用して作文指導を行う。	A		
		(3) コミュニケーション能力を高めることができるよう、考え表現する活動をICTも活用して行う。	B		
地歴公民	<p>地理(2年次)・歴史(3年次)への興味・関心を高め、人生をより豊かにするような知識や考え方を身に付け、行動することができるようにする。</p>	(1) 生徒の興味・関心を高めるため、学習内容を日常生活と結び付けられるように、身近な話題を取り上げ、教材を作成し授業を行う。	B	B	<p>時事問題に関する知識・関心の低さから、地理・歴史によって形成された地域・国の特色を現代と関連付けながら学習することが難しかった。毎時間、時事に触れながら興味・関心を高め、身近な問題として考えさせる。</p>
		(2) 日常生活でも活用できる知識・考え方を身に付けられるように、生徒自身がこれまでに見聞きした事柄と社会(世界)を比較しながら考察できる教材を作成し授業を行う。	B		
		(3) 学習内容をより理解できるように、ICTを活用して写真や映像、地図等を共有し教材として活用する。	C		
数学	<p>実態に即した教材を選択・実践することで、数学への興味・関心を深めるとともに基本的事項を十分に理解できるようにする。</p>	(1) 定義・定理などを平易な表現で提示する。	B	B	<p>基礎基本の定着を目指し、質問を工夫する。課題解決のために、話し合い活動を取り入れる。</p>
		(2) 解ける喜びを体験できるように、基本問題を準備し授業を行う。	A		
		(3) 理解の程度に応じてICTを含む作業を取り入れた授業を行う	B		
理科	<p>自然の事物に関する興味・探究心を高め、身のまわりの現象や事物について科学的に探究する能力と態度が身につくようにする。</p>	(1) 自然の事物に関する興味・関心を高めるよう身のまわりの現象や事物と関連付けた授業を行う。	A	B	<p>生徒実験の回数を増やす</p>
		(2) 目的意識をもって実験や観察を行い、理解が深まるよう図や写真、動画、ICT機器などを活用する。	B		
		(3) ICT機器を活用し主体的に調べる機会を通して課題解決力を育み、まとめ学習のアウトプットを通して思考・判断・表現力を高める。	A		
保健体育	<p>保健の知識を身に付け、生活習慣に生かすとともに、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようにする。</p>	(1) 基本的な生活習慣を身につけ、各種運動の特性を理解させ運動の楽しさを味わうことができるようにする。	A	A	<p>体育の授業でICTを活用し効率的に運動技能を高めさせることで楽しさを味わわせる。</p>
		(2) 集団行動によりコミュニケーション能力を高める協調性を養う。	B		
		(3) 新聞、ICT等で身近な題材を活用し、関心・意欲を高め、生涯を通して健康について考える機会を与える。	A		
外国語	<p>自力で英文の内容を読みとろうとする積極的な態度を身に付けさせるとともに、学習教材をとおして、就職や進学に必要な基本的な外国</p>	(1) オンライン教材やさまざまな学習アプリを活用し、多様な学習機会を提供する。	A	A	<p>来年度生徒数が減少するため、生徒同士のペアワークができない問題がある。</p>
		(2) 読解に必要な文法事項を理解できるように、動画を利用しながら文法事項を説明する。	A		
		(3) 基本的な日常会話表現を使うことができるように、授業でペアワークを活用する。	B		

別紙様式2 (高)

		語能力を身につけさせる。				
	家庭科	基礎的な知識・技術を身に付け、生活の課題を見出し、改善しようとするができるようにする。	(1) 生活に必要な知識や技術を習得することができるように、個人差に配慮した指導法を工夫する。	A	B	※次年度の実施なし
(1) 生徒が授業内容を理解することができるように、ワークシートを作成し授業で活用する。			A			
(3) 身近な生活の中に課題を見つけ、改善方法を考えることができるように、ICTを活用した画像や動画、新聞記事を教材に取り入れる。			C			
教務	1 授業時数・行事予定の管理により、授業の確保、行事の円滑な運営を行う。		(1) 週ごとに時間割表を提示するとともに授業変更を推奨し、年間授業時数の確保に努める。	A	A	閉課程に向けて学校行事の精選が必要である。
			(2) 学校行事の円滑な運営に向けて、事前の打ち合わせ・調整・手続きを十分に行う。	A		
	2 ICTの積極的な活用により、校務をさらに効率化する。	(1) 教員間の情報共有に積極的にICTを活用する。	A			
		(2) 校務支援システムの円滑な運用・管理に努める。	A			
		(3) Webページのこまめな更新により、定時制の活動の様子を広報する。	A			
生徒指導	1 教職員間・保護者との報告連絡相談を密に行い、生徒が基本的な生活習慣を身に付けることができるようにする		(1) 専任者が共通理解をもって指導するため、生徒の情報を専任会等で共有する。	A	A	引き続き挨拶・声かけを密に行い信頼関係を構築することで、コミュニケーション能力を図ると共に基本的な生活習慣を確立させる。
			(2) 挨拶やマナーアップを個別に指導するため、毎日登校時に全職員で立哨指導を行う。	A		
			(3) 家庭との、遅刻・欠席・早退などの連絡報告を徹底する。	A		
	2 学校行事等に規範意識を高める機会を設け、学校生活・社会生活における規律を守ることができるようにする。	(1) スマートフォン・タブレットの適切な使用を促すため、スマホの家庭ルール作り・集会での指導を行う。	B			
		(2) 交通講話・登下校における自転車・原付バイク・自家用車の使用状況確認、集会での指導を行う。	B			
		(3) 薬物乱用防止に向け、薬物に関する講話や集会での指導を行う。	A			
特別活動	生徒が行事運営に参加する機会を設けることにより、生徒が学校行事に出席することができるようにする。		(1) 集会・学校行事において、主体的な行事運営ができるように、生徒に役割を与える。	A	A	学校生活全般で、考える場面を増やし、なるべく生徒自らが企画・運営できるような機会を創出していく。社会性をより高め、実社会に出た際の実践力を身につけさせていきたい。
			(2) 定通体育大会や学校行事等への参画を通して、協働の場面を増やし、生徒の自己有用感が高まるよう支援を行う。	A		
			(3) キャリア・パスポートを活用し、生徒が自己の活動を振り返り、新たな目標や課題について考える時間を設ける。	B		
進路指導	キャリア・カウンセリング等を行うことにより生徒が希望する進路を実現できるように支援する。		(1) 自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力の育成に向けて、キャリア・カウンセリング(キャリア・パスポートの活用)を行う。	B	B	キャリア・パスポートの更なる有効活用。案内の配布やclassroomを利用した情報提供の強化。
			(2) 進路について考える機会とするため、職員による1人1回以上のキャリアガイダンスを行う。	A		
			(3) 就職試験・入学試験に向けて、生徒個々に応じた学習相談・出願指導・面接指導・情報提供を行う。	B		
保健厚生	保健関係行事や相談等を行うことにより、生徒が自分の心身の健康を意識して生活することができる		(1) 個別に健康相談・栄養指導を行い、生徒が自分で健康を管理する方法を指導する。	B	B	健康診断事後指導、アンケートの実施、保健だよりの発行等を通して、引き続き基本的な生活
			(2) 健康診断事後指導において、生徒が自ら健康を管理する機会を家庭で設けるよう、保護者に依頼する。	B		

別紙様式 2 (高)

	ようにする。	(3) 悩みがある生徒に、希望に応じて、悩みの解消に向けて教育相談の実施・専門機関との連携を行う。	B		習慣の確立を働きかけていきたい。
		(4) 手洗い・うがい・換気等の感染症対策を継続して実施するよう指導する。	B		
第2学年	基本的な生活習慣を身に付けるとともに、級友や家族の気持ちになって考え行動することができるようにする。	(1) 級友や家族の気持ちを考え行動することができるようにするため、HRでの指導・面談を行う。	B	B	少人数でも、学校という集団を意識させ、協調性をやしなう。HR等を利用して、進路目標を考えさせ、社会に出るための準備を始める。
		(2) 学校・社会のルール・マナーの意味を理解し行動することができるようにするため、登校指導での声かけ・授業やHRにおける指導・面談を行う。	A		
		(3) 集団の中で自分の役割の意味を理解し行動することができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用して面談・声かけを行う。	B		
		(4) 級友や家族の思い・考えを受けとめ、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用したキャリア・カウンセリングを行う。	B		
第3学年	目標をもって生活するとともに、自分の属する集団のことを考え行動することができるようにする。	(1) 学校や身の回りの人の気持ちを考えて行動できるようにするため、HRでの指導・面談を行う。	B	B	卒業を見据えた学びの目的を再認識し、通学への意欲を喚起する。HRや学校行事等を利用して、社会生活を充実させるための素養を高め、どのようなことで社会貢献につなげていけるかを考える契機とする。
		(2) 社会のルール・マナーの意味を自分で考えて行動することができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。	A		
		(3) 集団の中での自分の役割や意味を、自ら考えて行動することができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用した面談・声かけを行う。	B		
		(4) 学校や自分の属する集団に思い・考えをもち、自分に何ができるかを考えることができるようにするため、キャリア・パスポート等を活用したキャリア・カウンセリングを行う。	B		
第4学年	将来への目標をもって生活するとともに、社会的に自立することができるようにする。	(1) 社会や地域の人々の気持ちを考え行動することができるようにするため、HRでの指導・面談を行う。			※今年度は4学年の在籍なし
		(2) 学校・社会のことを考え規律ある行動をすることができるようにするため、登校指導での声かけ・授業・HRにおける指導・面談を行う。			
		(3) 生徒が集団のなかで自分の役割を果たすことに喜びを感じられるようにするため、教育的効果が高まるようなICT活用を図り、キャリア・パスポート等を活用した面談・声かけを行う。			
		(4) 自己分析を促し、外部講師だけでなく定時制職員によるキャリアガイダンスも展開し、卒業後に社会や地域へどのように貢献していくかを自分で考えられるよう、見通しをもって支援する。			

※ 評価規準：A：大変よくできた（達成度 100～80％） B：よくできた（達成度 80～60％） C：普通（達成度 60～40％）

D：あまりできなかった（達成度 40～20％） E：全くできなかった（達成度 20～0％）